

JFE九州システム建築協会の

「好況の持続に期待」

総会に32人

【福岡】JFEシビル九州支店（辰田広一 支店長）の販売施工店で構成するJFE九州システム建築協会は

5日、福岡市のグランドハイアット福岡で総会を開催し、会員ら32人が参加した。写真。田中千穂会長（タナ

カ鋼建工業社長）は冒頭のあいさつで「1年前と比べると皆さんの顔が和やかに見える。しばらくはいい状況が

続く」と期待している。景気というのは専門家でも読みづらい。ただ、昔からある格言がある。1989年に始まったバブルは93年に終わった。バブルが崩壊する際に言われたのが、『回復まで20年かかる』ということ。昨年まで、悲観して過ごしていたが『戌亥の借金

を辰巳で返せ』という金融業界の格言があり、12年の新聞には『辰巳天井』の言葉が新聞に書かれており、今年も良くなるだろうと思ったら、12年末か

ら13年にかけて良くなった。格言は当たった。シビルの商品をがんばって売っていかう」と訴えた。

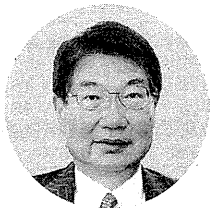
森田昌敏・JFEシビル常務取締役システム建築事業部長は「昨年度の九州支店の成績は良く、久しぶりに沖縄で工事ができた。今年は昨年度と同じくらいと見ているが、足元はけっこう案件が出てきたと感じている。商業関係、食品工場、物流

関係で引き合いが出ており、堅調な状況で推移している。各地の情報も吸収し、一緒に営業している事が功を奏している。今後も一緒に頑張っていきましょう」と述べ、協力を求めた。

集音盤

JFEシステム建築協会の全国大会で九州を訪れた藤井善英・JFEシビル社長。「九州は非常に活気がある。東京はもちろん、名古屋と同じくらいだ」と印象を語る。
▽：藤井社長は続けて「協会の会員と話をする、売り上げも伸びて

九州の活気を全国に



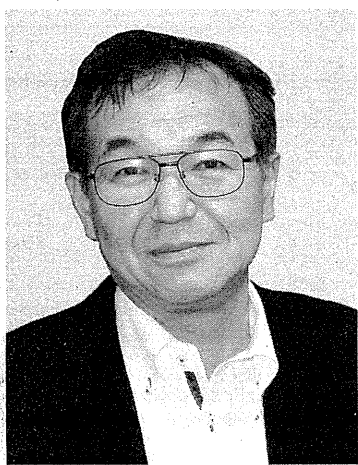
いる様子で会員から『来年はもう一段上の賞を狙いたい』とも言われた」とうれしそうに語る。
▽：同社は5日、福岡市で盛大に全国大会を開催。毎年九州を訪れてい

るとはいえ、今回、初めて鹿児島に入り、新たに入会した会員企業の工場を見学。「自動化が進み、立派な工場だった」と感激した様子。
▽：需要は下期に向けて増えるとの予測する声が多い。九州地区でもその手応えを感じている様子で「九州のこの流れを全国に広げていければ」と希望を述べる。（苑）



△建築事業部長は「昨年度の九州支店の成績は良く、久しぶりに沖縄で工事ができた。今年は昨年度と同じくらいと見ているが、足元はけっこう案件が出てきたと感じている。商業関係、食品工場、物流

登壇 新支店長



JFEシビル・九州支店

辰田 広一氏

地方勤務は大阪、北海道に続いて3地区目。「九州の人たちの人柄は良く、明るくバイタリティーがある」と驚く。「ビジネスでも結論が早い」とも。4月中旬に着任してあいさつ回りを行ったが、約1か月で100人以上と言葉を交わした。その中で気になる点として「店舗関係は元気が、

顧客を大切に支援

製造業関係が慎重。この点から、本格的に需要が戻ってきていない」と感じたそう。

同支店はシステム建築（メタルビル）と立体駐車場、耐震デバイス、立

品を取り扱う。支店長を含め12人のスタッフで営業を展開する。運営方針として4つを挙げる。1つ目は「メタルビルと立体駐車場、耐震デバイスなど今までの商品を継続採用していた

だいているお客さまを大切にサポートしていく。2つ目は「商業店舗はメタルビルの採用が多い。これを継続していきたくるビルだが、食品工場でも毎年数件が採用され

ている。鉄骨構造提案力と屋根・壁のエコ建築がマッチしているのだから、引き続き注力する。4つ目は「私たちは協働会（施工店）のサポート。彼らの営業をきめ細かくフォローしていくと同時に仲間を増やしていきたい」。

（苑田 容生）

▽辰田広一（たつだ・こういち）氏 1980年3月神戸大大学院建築学科卒、同4月川鉄建材工業入社。技術研究所勤務、東京支店設計部など技術畑出身。06年9月JFEシビル北海道支店長。09年4月西部建材営

業部部長。10年西部メタルビル営業部部長。13年東部メタルビル営業部部長。14年4月から現職。自宅は兵庫県明石市で家族は夫人と2男。単身赴任。趣味はウォーキング。55年3月26日生まれ。石川県出身。